令和二年度障害者総合福祉推進事業

地域の発達障害者支援機関等で実施可能なペアレント・トレーニング実施テキストの 作成 報告書

令和3年3月

一般社団法人日本発達障害ネットワーク (JDDnet)

目次

事業概要1
オンラインによるファシリテーター養成研修4
ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修における参加者へのアンケート調査報告8
ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修における SV へのアンケート調査報告25
委員からのコメント34
資料1 支援者用マニュアル47
資料 2 親用テキスト

1. 事業概要

1-1 事業の目的

発達障害者支援法においては家族支援の重要性が強調されており、近年その手法として「ペアレントプログラム」や「ペアレント・トレーニング」についても広く認知されるようになってきた。また H30 年度より創設された「発達障害児者及び家族等支援事業」により、これらの家族支援プログラムの実施は制度的にも都道府県に加えて市町村においても可能となっている。

ペアレント・トレーニングが全国で広まる一方、プログラムの質の維持は重要な課題となる。親子のニーズにプログラムの内容が合っていない、実施回数が不足している、実施する支援者の十分な研修や経験を積んでいないなど、様々な課題が散見されるようになってきた。そのため、ペアレント・トレーニングへのニーズの増加とともに、プログラムの実施に必要な条件を明示する必要があった。

令和元年度の厚生労働省障害者総合福祉推進事業「発達障害支援における家族支援プログラムの地域普及に向けたプログラム実施基準策定及び実施ガイドブックの作成に関する調査」では、地域での発達障害の家族支援システムの拡大のため、発達障害におけるペアレント・トレーニングの実態を明らかにするため、自治体、福祉事業所、医療機関向けに質問紙調査を行い、特に実践が定着している自治体、事業所、医療機関にヒアリング調査を行った。また、ペアレント・トレーニングの研究者・実践者によって構成される事業委員、事業協力委員による委員会において、ペアレント・トレーニングのプログラム内容について整理し、実施基準について検討し、プログラムの核となる基本プラットフォーム、オプションメニュー、実施運営等についてガイドブックとしてまとめた。

同事業の調査結果から、自治体、福祉事業所、医療機関でのペアレント・トレーニングについて以下のような共通のスペックが示された。それは 2-3 名のスタッフが 4-7 名程度の保護者を対象とし、1 回あたり 60~90 分程度 6~8 回程度で実施され、プログラムとしては、「行動の定義」「3つのタイプ明け」「行動のしくみ」「ほめ方・プラスの関わり方」「指示の出し方」「計画的無視」の6つの基本プラットフォームにおけるコアエレメントが包含されるというものであった。基本プラットフォームは、ペアレント・トレーニングの実施者の拠り所となる共通の土台のようなものであり、実施するプログラムを「ペアレント・トレーニング」と呼ぶためには必須となるものである。「基本プラットフォーム」は、①コアエレメント(プログラムの核となる要素)、②運営の原則、③実施者の専門性から成り立つものである。全体の課題としては、特に人材の確保、SVの確保などが挙げられ、地域で持続可能なペアレント・トレーニングの実施運営を行うためには、エビデンスに裏付けられた基本プラットフォームに基づくプログラムや実施のノウハウを普及し、定着させていくことが必要であることが示された。

本事業の目的は、ペアレント・トレーニングの支援者を養成するための研修の基本的なマ

ニュアルとなる基本プラットフォームを使用したテキストブックの作成である。

1-2 事業内容及び手法

令和元年度障害者総合福祉推進事業の成果である基本プラットフォームに基づいて、事業委員で討議し実施テキストを作成する。テキストは、実際の参加者が使用する参加者用テキストと、支援者が用いる支援者用テキストからなる。それぞれのテキストの内容については、昨年度作成されたガイドブックと基本プラットフォームを基に事業委員会を中心に項目を絞り込み、討議しながら作成する。PT のロールプレイ部分に関しては動画を作成し、実施者負担を軽減するとともにネットでの支援にも使えるようにする。これらをもとに、オンラインによる支援者養成プログラムを実施し、参加者及びPT実施経験のあるスーパーバイザーへのアンケート調査を実施し、テキストの内容や実施の進め方等について検証し、完成させる。

1-3 狙いとする事業の成果

発達障害に関するペアレント・トレーニングについて、基本プラットフォームを含む標準的なテキスト、参加者用テキスト、支援者用テキストを作成することで、各地域・機関でのPTの実施に寄与することが期待される。これらのテキストは次のステップであるPTの支援者養成プログラム、評価方法の確立に向けての重要なツールとなる。

1-4 事業委員・事業協力委員

事業委員長 市川 宏伸 一般社団法人 日本発達障害ネットワーク

事業委員 (五十音順)

石井 礼花 東京大学大学院医学系研究科

井澗 知美 大正大学 心理社会学部

井上 雅彦 日本発達障害ネットワーク 鳥取大学 医学系研究科

岩坂 英巳 日本発達障害ネットワーク ハートランドしぎさん 子どもと大人の発

達センター

式部 陽子 帝塚山大学 心理学部

庄司 敦子 まめの木クリニック

高柳 伸哉 愛知東邦大学 人間健康学部

立花 良之 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター

中田 洋二郎 立正大学 心理学部

西牧 謙吾 国立障害者リハビリテーションセンター

原口 英之 国立精神・神経医療研究センター

日詰 正文 日本発達障害ネットワーク 国立重度知的障害者総合施設 のぞみの園

免田 賢 佛教大学 教育学部

森 千夏 大阪大学キャンパスライフ健康支援センター 相談支援部門

山口 穂菜美 所沢市こども支援センター 発達支援エリア

事業事務局

鳥取大学 医学系研究科 井上雅彦研究室

1-5 事業委員会(事業委員会以外等の打合せなどは除く)

本事業は半年間の実施であり、テキスト作成に向けて以下のように事業委員会のもとにワーキンググループを作り事業を実施した。当初は対面で討議や作業を行う予定であったが COVID19による緊急事態宣言などの影響により、すべてをオンラインで実施した。

10月20日 第1回厚労推進事業委員会

11月21日 第1回テキスト作成会議

1 月14日 第2回テキスト作成会議

1 月17日 第1回テキスト会議

1 月24日 第2回テキスト会議

2 月21日 第1回テキスト検証会議

2 月23日 第2回テキスト検証会議

2 月28日 第3回テキスト検証会議

3 月16日 第2回厚労推進事業委員会

3 月21日 第1回動画作成会議

3 月 22 日 第 2 回動画作成会議

3 月 24 日 第 3 回動画作成会議

3 月 25 日 第 4 回動画作成会議

2. オンラインによるファシリテーター養成研修

事業委員会により作成した支援者養成用テキストと受講者用テキストを使用し、ファシリテーター養成研修を実施した。なお COVID19 による緊急事態宣言などの影響により、すべてをオンラインで実施した。

2-1 開催日

2021年2月21日(日)、23日(火)

2-2 参加者

参加者は日本ペアレント・トレーニング研究会のWEB上から募集した。参加者数は41名であった。参加者に関する基本情報について表1~表6に示した。参加者の年代としては、30代(44%)に続き、40代37%が多く、支援経験年数は3~5年(32%)、10年以上(32%)が多くみられた。職種としては、公認心理師(30%)、臨床心理士(27%)が最も多かった。所属機関は病院等医療機関(22%)、自治体(17%)、児童発達支援センター(17%)からの参加者が多かった。PT実施経験については、経験のある参加者(46%)も半数程度みられたが、リーダーとしての経験に限らない。PTスタッフ養成研修の受講経験については、未経験の参加者が90%であった。なおアンケート調査協力に関する説明を書面にて行い、同意を得た。

表 1 参加者の年齢

	I MI	
	N	%
20代	3	7
30代	18	44
40 代	15	37
50代	5	12
60 代以上	0	0
無回答	0	0
合計	41	100

表 2 性別

	N	%
女性	36	88
男性	4	10
無回答	1	2
合計	41	100

表 3 所属機関

	N	%
自治体	7	17
児童発達支援センター	7	17
児童発達支援事業書	5	12
放課後等デイサービス	1	2
多機能事業所	2	5
発達障害者支援センター	2	5
相談支援事業所	2	5
学校等教育機関	4	10
病院等医療機関	9	22
その他	2	5
合計	41	100

その他:自営業、児童家庭支援センター

表 4 職種

	N	%
公認心理師	19	30
臨床心理士	17	27
言語聴覚士	0	0
作業療法士	0	0
保健師	2	3
保育士・幼稚園教諭	9	14
医師	1	2
看護師	3	5
社会福祉士	3	5
精神保健福祉士	3	5
その他	7	11
合計	64	100

その他:教員免許(小学校、高等学校)、児童指導員、相談支援専門員、理学療法士 メンタルケア心理士、発達障害コミュニケーション指導者、発達障害児の保護者 公認心理師申請中

表 5 支援経験年数

	N	%
1年未満	3	7
$1\sim2$ 年	2	5
3~5年	13	32
6~9年	10	24
10 年以上	13	32
合計	41	100

表 6 PT 実施経験

		N	%
ある		19	46
ない		22	54
	合計	41	100

表7 PT スタッフ養成研修受講経験

		N	%
ある		4	10
ない		37	90
	合計	41	100

2-3 内容

【事前研修】 参加者決定者には、事前研修として、「ペアレント・トレーニングの基礎知識 &基本プラットフォームとは」(講師:岩坂英巳、WEB セミナー2020 講演、約 1 時間) をオンデマンドにて視聴してもらい、2 月 21 日・23 日に行われる演習のホームワークシートや演習シートに事前に記入しておいてもらった。

【研修スケジュール】

- 2月21日(1日目)
- ■オリエンテーション 13:00~13:30 講師:式部陽子 「グループワークのコツとファシリテーターの専門性」
- ■セッション 1 13:30~14:00 講師:井上雅彦

「自己紹介&良いところ探し ワーク」

■セッション2 14:00~15:00 講師:井上雅彦

「子どもの行動観察と3つのタイプわけ」

ワーク:ほめようシートのホームワーク報告、ほめるロールプレイ

■セッション3 15:00~15:45 講師:井上雅彦

「子どもの行動のしくみを理解しよう(行動の ABC)」 ワーク:観察上手

■セッション4 15:45~16:45 講師:井上雅彦

「環境調整」 ワーク:整え上手

■まとめ 16:45~17:00

2月23日(2日目)

■2 日目オリエンテーション 13:00~13:10

■セッション5・セッション6 13:10~14:40 講師:中田洋二郎

「子どもが達成しやすい指示」、「上手な注目の外し方」

ワーク: 伝え方のテクニック (CCQ) ロールプレイ、待ってからほめる (無視) ロールプレイ

■運営のコツ&よくある質問について 14:50~15:30 講師:井上雅彦

■質疑応答 15:30~16:00

■閉会挨拶、事務連絡 16:00~16:10

3. ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修における参加者へのアンケート調査 調査結果報告

3-1 目的

本事業で作成したペアレント・トレーニング(以下PT)基本プラットフォームマニュアルに基づいてオンラインで実施したファシリテーター養成研修会(以下、養成研修会)の内容が、参加者にとってわかりやすかったか、養成研修後に自機関で実施するために有用な内容であったかを確認することを目的とした。

3-2 対象

2日間に渡り開催した養成研修会に参加した参加者 41 名とした。なおアンケート調査協力に関する説明を書面にて行い、同意を得た。

3-3 方法・期間

アンケート調査はグーグルフォームを用いて実施した。項目は本事業の委員で協議し、決定した。 参加者の基本情報 (表 1), アンケート調査項目 (表 2, 表 3) は、養成研修会の内容に沿い、その理解度「~について理解できた」と、自身が実施できそうかという効力感「~できると思う」について尋ねた。まそれぞれ「そう思わない」「あまりそう思わない」「そう思う」「とてもそう思う」の 4 択とした。また、実施に際し難しいと思われることや、その他意見については自由記述を求めた。最後に、研修会全般の感想を尋ねた。

実施日は養成研修の開催日である 2021 年 2 月 21 日と 2021 年 2 月 23 日とした。

表 1 参加者の基本情報項目

項目	項目詳細
年齢	20 代, 30 代, 40 代, 50 代, 60 代以上
性別	男性,女性,その他,回答なし
所属機関	自治体、自動発達支援センター、児童発達支援事業所、放課
	後等デイサービス, 多機能事業所, 発達障害者支援センター,
	相談支援事業所,学校等教育機関,病院等医療機関,その他
職種(資格)	公認心理師, 臨床心理士, 言語聴覚士, 作業療法士, 保健師,
	保育士・幼稚園教諭, 医師, 看護師, 社会福祉士, 精神保健
	福祉士、その他
支援経験	1 年未満, 1~2 年, 3~5 年, 6~9 年, 10 年以上
PT 実施経験(リーダー, サブ関	ある, なし
係なくスタッフとしての実施)	
PT スタッフ養成研修受講経験	ある、なし

表2 養成研修1日目アンケート項目

- 【事前研修】ペアレントトレーニングの基礎知識&基本プラットホームの講義内容を理 1 解できた
- オリエンテーション『グループワークとファシリテーターの専門性』について理解でき 2 た
- 3 セッション1『自己紹介の内容や進行について理解できた
- 4 セッション 1 『自己紹介』の進行が自身でできると思う
 - →難しいと思うことがあれば教えてください(自由記述)
- 5 セッション1『良いところ探し』の内容や進行について理解できた
- 6 セッション 1 良いところ探しの進行を自身でできると思う
 - →難しいと思うことがあれば教えてください(自由記述)
- 7 セッション2「子どもの行動観察と3つのタイプわけ」について理解できた
- 8 セッション2『ほめようシート』ホームワーク報告の内容や進行について理解できた
- 9 セッション2 『ほめようシート』ホームワーク報告の進行を自身でできると思う →難しいと思うことがあれば教えてください(自由記述)
- 10 セッション2『ほめる演習シート』の内容や進行について理解できた
- 11 セッション2『ほめる演習シート』の進行を自身でできると思う→難しいと思うことがあれば教えてください(自由記述)
- 12 セッション3『子どもの行動のしくみ』について理解できた
- 13 セッション4『環境調整』について理解できた
- 14 セッション 4『整え上手』のワーク内容や進行について理解できた
- 15 セッション 4『整え上手』のワーク進行を自身でできると思う→難しいと思うことがあれば教えてください(自由記述)
- 16 セッション 4『親子タイム』について理解できた
- 17 セッション 4『親子タイム』の説明ができると思う
- 18 本日の内容についてご意見・ご感想があれば教えてください(自由記述)

〈本日の内容について教えてください〉

- 1 セッション5『子どもが達成しやすい指示』について理解できた
- セッション 5 『伝え方のテクニック (CCQ) 』のロールプレイの内容や進行について 2 理解できた
- セッション 5 『伝え方のテクニック(CCQ)』のロールプレイの進行を自身でできる 3 と思う
 - →難しいと思うことがあれば教えてください(自由記述)
- 4 セッション6『上手な注目の外し方』について理解できた
- セッション 6 『待ってからほめる(無視)』ロールプレイの内容や進行について理解で 5 きた
- 6 セッション 6 『待ってからほめる (無視) 』ロールプレイの進行を自身でできると思う →難しいと思うことがあれば教えてください (自由記述)

〈研修会の全体及びマニュアルについて教えてください〉

- 1 グループに SV がいることで理解しやすかった
- 2 グループに SV がいることで安心して参加できた
- 自身の機関でペアレント・トレーニングを実施する際にも,困ったときにすぐ相談で3 3 きる SV がいてもらいたい
- マニュアルを読むだけでなく,研修会に参加したことでより実施についてイメージを 4 持てた
- 5 2日間の本研修内容に満足している
- 6 ワークシートなど資料のサンプルは実施する上で役に立つと思う
- 7 マニュアルの内容は十分だと思う
- 8 私はペアレント・トレーニングを自身の機関で実施できる
- マニュアルにあって本研修で扱わなかった内容で研修を希望する内容があれば教えて 9 ください(自由記述)
- 10 その他, 本研修についてご意見・ご感想があれば教えてください(自由記述)

3-4 結果

3-4-1 回収率及び有効回答率

養成研修 1 日目の参加者は 41 名,アンケート回収率は 95.1% (39 名),有効回答率も同様であった。養成研修 2 日目の参加者は 41 名,アンケート回収率は 97.6% (40 名),有効回答率も同様であった。

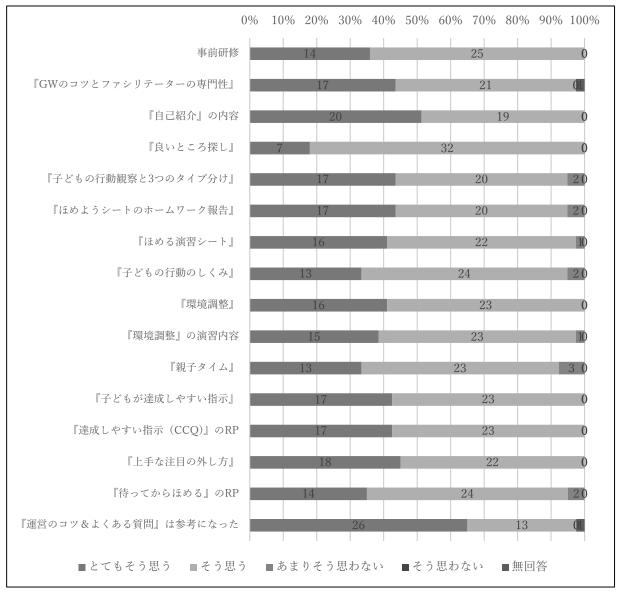
3-4-2 研修の理解度と今後の実施に向けた効力感について

1日目と2日目のアンケート結果を研修内容の理解度と、実施にむけた効力感の項目に分けて 表4と表5に示した。困難に感じた点の自由記述については表6~表13に示した。

理解度については、『自己紹介』の内容が、他の項目と比較し、とても理解できた人が多く(表 11)、進行についても『自己紹介』は全員が実施について「とてもそう思う」「そう思う」と答え ていた。一方で『良いところ探し』の理解について「とてもそう思う」と答えた人が他の内容と 比較して最も少なく、『親子タイム』については、「あまりそう思わない」と答えた人が最も多い 結果となった(表11)。『親子タイム』は実施についてできるとは「あまり思わない」と答えた人 が,他の内容と比較し,最も多かった。

いずれかの内容においてファシリテーターのロールプレイ(以下、RP)実施後、今後自身が進 行できるかどう問う質問に「あまりそう思わない」とつけた回答者は5名おり、そのうち4名は

表4 研修内容の理解度「~について理解できた」



これまで PT 実施経験のない参加者であった。また、この 4 名の職種には専門職も含まれており、ばらつきがあった。全ての研修終了後に、今後自身の機関で PT を実施できると思うかどうか尋ねる質問で「あまりそう思わない」と回答した参加者は 6 名であり、そのうちこれまでの PT 実施経験のない参加者は 5 名であった。実施経験はあるが今後の実施に自身がない参加者は 1 名は、前回実施してから数年のブランクがあった。

表5 実施に向けた効力感について「~できると思う」

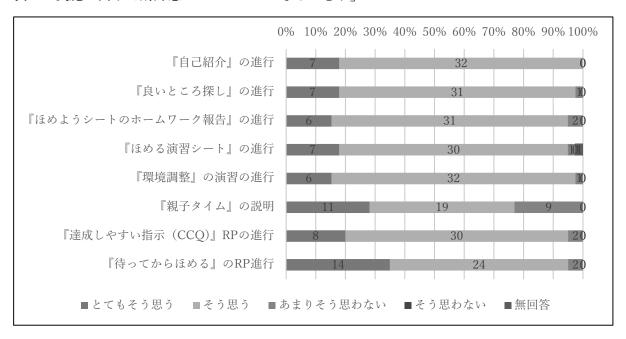


表 6 『自己紹介』の進行について難しいと思うこと

紹介の中でお子さんの特性をどのように掴んでいくのか、どこまで語ってもらうのかのさじ加減が難しいのかなと感じました。
保護者の発言に、その場でフィードバックしていくこと。緊張もあり、しどろもどろになってしまいそう。まずは良かった点を端的に返していけたらいいのかな思った。
会の中でも話がありましたが、話続けてしまう方や、緊張の高い方に安心して参加していただけるような雰囲気づくり等、今日お話がお聞きできたので良かったです。
経験と場数を重ねて頑張りたいと思います
自己紹介が長くなってしまう人に対して、その人の思いに応えつつどのように対応するのかが難しいと思った
穏やかな状態で進行することは難しそうですが、実際に行うことは楽しそうです。
緊張・不安が高い参加者について、その場で見極めていくのは労力が要るのではと感じる。例えば支援センター内の PT 実施で、参加者が利用児の保護者などであれば、申し込みの時点で情報共有するなどして事前に知ることができるが、そうでない公募要素の強い集まり方である場合、よりファシリテーターとしての素養が問われるように思う。
話が長くなる方がいた場合の終わり方が上手くできるかなと思いました。

- 9 保護者についての事前情報があったとしても,グループの中で保護者が自分についてどのような表現をされるのか,どのような相互作用が生まれるのか,どの程度汲み取るのか,あっさりと対応するのか,グループの経験が浅いだけに,初回は緊張すると思います。
- 10 普段は子どもさんの名前を聞いていませんが、子どもさんの名前を尋ねることに気を遣います。
- 11 質問なのですが、子どもの診断名は言わない方向が良いのではというお話でしたが、それは自己紹介の時に「診断名は言わなくていい旨」を伝えなくてもいいですか?その様に説明するのも不自然ですが、最初の参加者の方が話したら、後の方も言わざるを得ない雰囲気にならないのかという気がして、先生方はどのようにされているか伺いたいです。

表7『良いところ探し』の進行について難しいと思うこと

- 1 良い所を見つけられない参加者への声かけに戸惑いそうです。
- 2 実際に体験したことですが、プラスの発言を求める場だからこそ、その時パワーのない保護者がしんどくなってしまったことがありました。さじ加減というか、強要しない雰囲気を保ちつつ、良い面にフォーカスを当てる練習をしていくバランスが難しいなと感じています。
- 3 自分自身も視野が狭くなったり褒めるバリエーションが少ないため、増やしていきたいと思った。
- 4 同じく経験と場数を重ねて頑張りたいと思います
- 5 全体会でもでていたが、「ない」という人に対しての対応が難しいと感じた。けれども、 「視点を大切にしよう」という方向で進めていくと良いというのはとても参考になった、
- 6 1人ずつのいいところ探しを聞いた後のフィードバックが不馴れで難しかった。
- 7 この部分のファシリテータを体験しました。探し出してくれた良いところをすくい上げる だけではなく、「むずかしさ」への理解とそれをこなせたことへの称賛の気持ちを表しき れなかったと感じました。
- 8 "ほめることは難しい"という思いをこちらは一貫するが、参加者にとっては価値観を揺さぶられる瞬間もあるのではと感じる。
- 9 『難しいですよね。』をベースにすることがポイントとお聞きできて安心しましたが、取り組みの序盤なのでかなり保護者の個性が出やすいと思われ、落ち着いて対応できるか不 安。
- 10 模範解答をいいがちな癖があることがわかりました。井上先生のいわれていた、うまくいかないよねと言う感じを共感し、それでいいよ、大丈夫という雰囲気を作れるよう意識できればと思いました。

表8『ほめようシートのホームワーク報告』進行について難しいと思うこと

- 1 自分の許容範囲を超えた発言が出たら…という不安がまだあります。
- 2 | 頭で思っていることと実際を近づけていきたいと思います
- 3 「ほめるのってむずかしいよね」という着地点を教えて頂いたことで、少し進行形しやす くなるとは感じたが、コメントを返すことについて「これでよいのか?」と不安がある。

4	どうしても余白(枠)が多いことが、書くことに対する無言の圧として感じられる。
5	これも、序盤の難しさを感じているためです。
6	ここも、進行してみるとうまくいくことに注目しがちだなあ思いました。どの参加者もそ
	れでいいんだというか、「ほめるのって案外むずかしいですよね」という雰囲気で進めら
	れるようにできるといいなあと思いました。
7	ほめた相手の反応が分かりづらい、または気持ち悪がられた場合の対応が難しいです。
8	上手くいった方の状況を掘り下げて聞きたくなるが(どうしてその日はできたのか、褒め
	て上手く行った日の翌日はどうだったか等)、時間の関係もあるのと、個人との対話にな
	ってしまうため詳細は聞かず、さらっと流すべきですか?

表9 『ほめる演習シート』の進行について難しいと思うこと

1	今回、支援をさている方で行ったので色んなきづきがでてきましたが、実際のお母さん方
	と共有する時にあまり意見が出てこなかったりすることもあるのかなぁと感じました。先
	生がおっしゃっていたようで、記入例はなくてもよい、後から出すなども保護者の方が書
	きやすくなると思いました。
2	同じく頭で思っていることと実際を近づけていきたいと思います
3	参加した保護者のニーズとあまりにもかけ離れた場面である場合,演習シートを行う意義
	を伝える難しさを感じた.
4	イラストの解釈がそれぞれ、また褒める箇所が、支援者でなく一般的な目で見ると「どこ
	を褒めたら…?」と難しいので、うまく返していけるかが難しい。
5	ほめるハードルを下げにくい保護者は少なからず居るため、そこから共感を引き出すのは
	技術が必要であると感じる。
6	設定を囲んでのやりとりは、初心者が進行する上では比較的やりやすいかもしれません。
7	「ほめるところがない」と言われたり、自分のお子さんの話を深めていき、ワークにもど
	れなくなる、というのはやってみるときっとよくあるのだろうと思い、難しそうだと思い
	ました。

表 10 『環境調整』の演習の進行について難しいと思うことがあれば教えてください

1	ファシリテーターがコメントしすぎず、保護者自身の工夫をできるだけ引き出せたらいい
	なと感じます。
2	具体的なスケジュールなどの工夫が提示できるか不安
3	環境調整など現実的な提案が難しい。兄弟の関係など「下の子が小さいから難しい」とい
	う発言がよく聞かれる。家庭の兄弟関係や家の間取りなどを聞いていくととても時間がか
	かる。
4	ファシリテーター役をさせていただいて、イメージできました
5	その場面に際して行う環境調整と、そのようにならないように事前にあらかじめ行う環境
	小調整,また,もっと長いスパンで整える環境(部屋の配置や導線など)等,整理したほ

- 6 イラストのなかでは、調整できる環境でも、実際のなかでは物理的に難しかったり、「変 更する」ことへの抵抗感が親にあったりするとハードルが高いように感じた。 そういっ た点をどのようにまとめていったら良いのか?
- 7 理想(理論)と実際の生活とのギャップを、どうその場の落としどころとしてまとめてい くのかは難しそう。
- 8 保護者の具体例、とてもわかりやすかったのですが、蓄積がない場合は専門書に取り上げられている例から抜粋するのに準備がいるなと思いました(講義の部分ですね。)。演習については、わかりやすい例だと思います。
- 9 私自身の療育への知識・経験がないため、今回練習した事例については対応できると思うが、参加者から上手く行かないケース等をあげられた際に、そこを掘り下げすぎず上手く事例に戻れるか、参加者が未消化のまま終了してしまう気がして心配です

表 11 1日目の研修内容について意見・感想

- 1 様々な先生のご実践の工夫やご意見が伺えてとても勉強になりました。ありがとうございました!
- 2 | 演習が多く、とてもありがたかったです。ご講義もわかりやすかったです。
- 3 無事初日を終えられてホッとしました。次回もよろしくお願い致します。
- 4 参加者の意見に対してファシリテーターとしての反応について、他の参加者の方がとても 参考になりました。SV の先生方から褒めていただいて素直に嬉しかったので、褒められる ことの効果を体感しました。ありがとうございました。
- 5 SV の先生の対応もよく、大変良かったです。ありがとうございました。
- 6 1日目の養成研修、お疲れさまでした。とても勉強になりました。 明後日も、どうぞよろしくお願いいたします。
- 7 ありがとうございました。とてもわかりやすかったです。
- 8 こどもの行動のメッセージが複数あると考えられる場合の対応はどう考えたらよいでしょ うか? (例:苦手な宿題の場面で、お母さんが妹の相手ばかりしている)
- 9 | とても分かり易かったです。
- 10 資料も内容も盛りだくさんで、事前に資料も目を通し切れておらず、消化不良なところがあるが、自分だけではこの内容を理解できないので、参加できて大変よかった。ファシリテーターも初めてやってみて、難しさを痛感できたのは、参加してこその気づきであった。ありがとうございます。
- 11 演習が多く、保護者役とファシリテーター役を経験できてよかったです。ファシリテーター役での気づきももちろん、普段なかなか経験することない保護者役としての気づきを得られて勉強になりました。
- 12 ありがとうございました。PT の講師の経験が 1 度だけありますが、ロールプレイのファシリテーターの経験がなかったため、大変勉強になりました。他の人の進行も参考になるものが多かったです。講義内容をさらに読み込み理解を深めていきたいと思います。
- 13 非常に実践的で、実際に起こりそうな心配な事(一人の保護者さんが話さ慰続けてしまう、不安たがかくて発表に抵抗が高い方、演習シートと子どもの年齢に差があるとき)のお話

表 12 『達成しやすい指示 (CCQ)』のロールプレイの進行について難しいと思うこと

- 1 構造化していただいているのでベーシックな進行はまだ何とかなりそうな気がしたので すが、質問への対応やイレギュラーへの対応が不安だと思いました
- 2 子ども役の方が熱心にしんどさを熱演された時に、どこまで見守るのかが難しいと思う
- 3 やりとりに詰まった時にどの程度アドバイスをするべきかの様子がつかみにくいかと思いました。
- 4 頭での理解と実際にはギャップがあると思うので、できるかぎり小さくしていきたい
- 5 | 色々なケースがあるので、フィードバックが難しいと思いました。
- 6 全体通してですが、参加者への FB は難しいと感じた。特に今回はロールプレイを行って もらうなど、参加者もややハードルがあがる中で、前向きに FB をしつつも大切な部分を 伝えていくということができるかは心配だなと感じた。
- 7 | 参加者に合わせて適宜内容を変更していく事が自身の能力として難しく感じます
- 8 ロールプレイがうまくできなかった時でも、出来たところを褒めていくのはまず大事だと 思うのですが、認めることを行った上で少しアドバイス的なことを行う時に押し付けや否 定にならないようにすることが今後の課題だと思いました。
- 9 ロールプレイがうまくいかなかったときの進行が難しいと感じました
- 10 CCQ で指示のあとのロールプレイで同じセリフを繰り返す親役の演習について,説明をしっかりと聞いていれば大丈夫なのかもしれませんが,同じセリフを繰り返すことをCCQという技法だと思ってしまわないかと思いました。技法の名前の説明はそんなに必要ないかもしれないですが同じセリフを繰り返すことをブロークンレコードといい,有効なやり方のひとつと説明するかなと思いました。

表 13『待ってからほめる』のロールプレイ進行について難しいと思うこと

- 1 他のロールプレイに比べて自由度が高いため、参加者によっては混乱するかなと思いました。
- 2 | 子役が上手すぎた場合、ごねることが続くと時間内に収められるかなと思いました。
- 3 ロールプレイ内で親役がうまく注目を外せていなかったときにできていた部分だけをほめるのか、コツなどをもう少し伝えたほうが良いのか、伝える際にはどのように伝えると参加者が傷つかずに済むのかということを教えていただきたいです。
- 4 対応できる行動とそうでない行動があるので、参加者にそれを理解して、判断して実行してもらえるように、行動の弁別の基準を伝えるのが難しいと感じました。
- 5 電話中ということは、言葉ではなくジェスチャーや表情で伝える必要もあるので、そのや りとりが少し難しいと思った.
- 6 | こちらも、進行中滞った時のフォローが難しそうです。
- 7 適切な無視,という共通認識を保護者と作り上げるのが難しいのではないかと感じる。知 的や特性的に重度である場合は特に、視線を外すという行為が危険である場合や保護者の

育児ストレスが高いことも多いと実感している。適切な行動を促すための間をどううまく 伝えていくのかが課題になると感じている。 | このセッションはしっかりと誤解なく伝えないと、と思う分、自分の中で説明が過剰にな 8 らないか不安です。 ロールプレイはその時の参加者によって大きく変わると思うので、臨機応変な対応ができ るかどうか心配である 10 参加者に合わせて適宜内容を変更していく事が自身の能力として難しく感じます 11 | どの行動がこの対応で効果的か,どの親には難しいのかなど,もう少し勉強が必要と感じ 12 | 待つこと, 無視することが, 実行して成功が自覚できるといいのかなと思いました。 13 | 注意すべきポイントが多くなってくるのでやや大変でした 14 | 今回は対面でなくオンラインだったのでロールプレイとしても一番難しかった。 対面であればよりファシリテーターも親役子役をされた方のポイントをつかみやすいと 思うので実践していきたい。 15 ロールプレイの内容を読んで、こんな風にうまくはいかないと思い込んでいる保護者の方 への対応。やってみての感想の言語化が上手な方、苦手な方がみえると思う。いろいろな 方の話を聞く中でそういうものなのかもと思ってもらえるといいのか。

3-4-3 全般の感想について

1日目と2日目を通した研修内容全般に関する項目の結果を表 14 に示した。自由記述については、表 15 と表 16 に示した。各グループにスーパーバイザー(以下、SV)が入っていたことについては、演習を理解しやすくなり、安心して参加でき、自身の機関で PT を実施する際にも SV がいてもらいたいという項目について、全員が「とてもそう思う」もしくは「そう思う」と答えていた。また、研修会に参加することで実施についてもイメージができたと、全員が「とてもそう思う」もうしくは「そう思う」と答えていた。本研修を通して、今後自機関で PT を実施できるかどうかについては、「あまりそう思わない」と答えた人が 15% (6名) みられた。

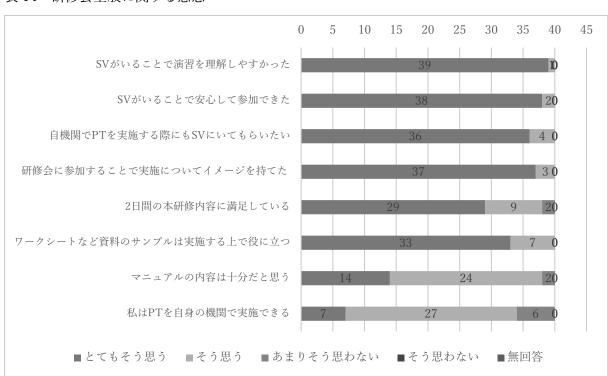


表 14 研修会全般に関する感想

表 15 マニュアルにあって本研修で扱わなかった内容の中で研修を希望する内容

マニュアルにはありませんが、オプションのコツなどのお話をお聞きしたいです。
学校との連携
最後の話にも出ていましたが、事例の相談ができる、事例検討のような場があるなどの情報があると嬉しいです。
基本プラットホーム以外への展開の仕方や、保育者や教師への研修について
ABA についてある程度の知識があることが前提にあった研修かと思います。心理士以外の職種の方も散見されたので、そういった方への虎の巻のようなパートや事前研修があってもいいのではと思いました。
特に思いつきません

- 7 井上先生が「ドキッとした体験」をご紹介下さいましたが、これまで実践を重ねられてきた先生方がファシリテーションや運営を行う上で、難易度が高かった状況・事例等をもっと伺いたいです。
- 8 障害別で、親御さんがあげる困った行動に対して、とりあげれらるものととりあげられないもの(=こだわりなど?)の違いを知りたい
- 9 ABC 分析、機能分析に関してファシ養成の中で伝える(内容自体を伝えること/それを保護者様に伝えたり、保護者様の理解をサポートする際のポイントなどを伝えること)ことがむずかしいと感じています。この部分をより詳細に扱う研修があれば、受講したいです。
- 10 | 研修の最後にも話があった SV 研修があると心強いです。
- 11 | 三項随伴性はどの程度まで理解していただけるといいのでしょうか
- 12 行動の3つのタイプ分けについて、分けた行動をどのようにセッションで取り扱うかを詳しくお聞きできるとありがたいです。
- 13 子どもの行動の仕組みについて
- 14 行動を3つにわけるのホームワークからのグループでの話し合い

表 16 その他、本研修についての意見や感想

- 1 コロナ禍の中、オンラインで開催していただき、ありがとうございました。資料の発送がギリギリだったので、もう少し余裕をいただければと思いました。お疲れ様でした。
- 2 1日目の感想に書きそびれたのですが、「ファシリテーターに必要な技術」の⑨番目、提案 する、教えるのではなく提案するように気を付けていきたいと思いました。 2日間ありがとうございました。
- 3 │ 2日間、ありがとうございました。とても勉強になりました。
 - 改めて、発達障害の子どもの育児に奮闘している一保護者としてペアトレの重要性を実感するとともに、ファシリテーターとしての心構えや講座を進めていくうえでの留意点など、インプットするものが多々ありました。2日間で学んだことをまずは日常生活の中でしっかりアウトプットし、ペアトレを一人でも多くの方に知っていただけるよう、これからも日々研鑽していきたいと存じます。

貴協会の益々のご発展をお祈り申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻の 程よろしくお願いいたします。

- 4 2 日間参加させていただきとても勉強になりました。特に、ロールプレイの演習を数多くできたことでイメージが膨らみ、実践していくための自信につながりました。講義部分が駆け足だったのでもう少しじっくりお話を伺えるとさらにわかりやすかったと思います。
- 5 研修ありがとうございました。具体的にほめるワークは日常に活かしやすく有効だと実感できました。行動の意味のところは、子を否定的にみないためにも大切な部分だと思います。保護者の方が想定しにくい部分でもあるかと思い、皆で「この子はなぜこの行動をしているのか」を考えるワークもあると良いのかなと感じました。

- 6 マニュアルやスライドがあるところが重い腰をあげていただけました。確かに不安なところは多々ありますが、スタートラインに立てる気持ちが持てました。ここ 1,2年で会の開催まで行きたいと思います。今後も今のコロナの予防接種ではありませんがどこどこのワクチン 50%の効果が 80%、90%の効果となるように更なる探求をペアトレを行う中で上げていければと思います(個人差はありますが)。本当にありがたい研修でした。欲を言えば、先生方が大変となりますが、個人的には午前から行う研修で時間的な余裕が生まれたところでもっと SV の先生方の経験談を伺ったりできれば良いなと思います。どこかがわかりにくかったからもっとではなく、ペアトレに絡む色々話を聞けるとありがたいです。フォローアップがあれば、そちらでとも思ったのですが。
- 7 自身がファシリテーターとしてペアトレを実施するイメージが持てました。ありがとうご ざいました。
- 8 実際に SV の先生方がされているグループに研修ないしは保護者として参加し、体験的に 学ぶ機会があればより理解しやすいと感じました。
 - 話されている内容をより実感してみたいと感じました。
- 9 オンラインでしたが、参加しやすかったです。2日目の URL が分からなくて焦りました。 事務局に送ったメールにすぐに気がついていただけて助かりましたが、電話など緊急連絡 先を明確にしてもらえると安心です。
- 10 2 日間を通して実際にファシリテータ役も体験しながらとても丁寧に学ぶことができました。ありがとうございます。以下のことについて今後の方向性について教えていただきたいです。
 - ・2 次障害が出てしまうまでのできるだけ早い段階でのアプローチが重要だと思うのですが、親は自覚していないけれども少し気になるようなお子さんの親御さんに参加してもらいやすくするために、一般的な子育て支援の一環としての展開の可能性はありますか?
 - ・どちらかというと問題行動として表出してしまう子ども自身の困り感を解決できると理解したのですが、子どもの潜在的な強みのようなものに注目する視点は入れていっても良いですか?
 - ・今回の講習に参加して、親御さんへのペアトレを実施していきたいと思っていますが、 同時に例えば幼稚園や保育所の先生に対するティーチャーズトレーニングのようなものも 実施したいのですが、今回の受講経験をもとに先生がクラスの子どもへの関わり方という ことで、進めていっても大丈夫でしょうか?
- 11 2 日間大変お世話になりました。自身がペアトレの親として昨年参加し、昨秋から発達支援機関で勤務を始めたという「ほぼ素人」の自分が、中田先生と井上先生が SV という 1 グループに参加できた幸運を本当にありがたく思っております。勤務先でもペアトレの実施を検討しておりますので、今回の経験をもとに実現できるように尽力したいと思っております! どうもありがとうございました。
- 12 ぜひオンライン研修は続けていただきたいです。実施者に対する SV を含んだフォロー体 制やネットワーク作りを希望します。

- 13 他の方のファシリテーター役を拝見できたのがとても良かったです。コメントや雰囲気、フォーカスを当てる部分など、とても参考になりました。また、SVの先生のコメントも、ファシリテートする際に参考にさせて頂けるのでありがたいです。
- 14 本当に濃い二日間の学びを有難うございました!先生方のチームワークの素晴らしさ,少しでも多くのことを受講者に伝えようとしてくださる姿勢に感動し,感謝の気持ちでいっぱいでした!競争率の高さを考えると難しいことも承知しておりますが,願わくば継続的に研修を受ける機会があれば嬉しいと思います。そして SV の先生の存在が何より心強かったです!今後の実践のなかでもスーパービジョンが受けられる仕組みが将来的に実現すれば,どんなに有難いだろうと思います。最後に…聞いてはいけないのかなと思い,お尋ねしにくかったのですが,日本ペアレントトレーニング研究会に入会させていただくことは可能か,もし入会を希望する場合はどうしたらよいかということも教えていただけたら有難いです。今後とも,どうぞよろしくお願いいたします。
- 15 とても実践的で、実際に起こりそうなこと、難しい場面についても先生方が教えてくださって、イメージができやすく大変勉強になりました。SV の先生方の実際にこれまでのペアトレのお話をお聞きできたのも興味深いお話が多かったです。

グループワークでは、実際にファシリテーター役をしたり、保護者の方になったりすることで、どのような声掛けが安心するか、どんな風にお声掛けできるとよいかなどが体験でき、意欲的な皆さんとご一緒できて、ペアトレをやってみたいという気持ちが心配だけでなく楽しみも出てきました。2日間ありがとうございました。

- 16 今回はオンラインということで参加しやすく、実際にやってみて多くのことを学べました。 対面ではないので時間の区切りが中途半端になってしまったり、演習では画面だけではや りにくい部分もありましたが、進むうちに緊張感もとれ、実際のPTでも、回を重ねると こういった雰囲気なのかな?といった空気は十分感じとることができました。
- 17 実際にファシリテーター役ことで実際に行う場面でのイメージができました。今まで漠然と見聞きしてきたのですが、一つ一つのセッションの意味、細かなコツや SV の方の経験などを教えていただくことで、自分の中での深められたり引き出しが少し増えたように感じました。
- 18 先の項目にもありましたが、SV の先生がグループワークの際についていて下さった事で 安心して研修に臨めました。これまで受けてきたオンライン研修では参加者同士でグループワークを運営するため、初対面・オンラインで行う時に非常に気を遣い、研修の本題と は違う事での緊張感が高かったです。ペアトレに参加してくださる参加者の方も同じよう な緊張感を体験せずに済むように配慮したいと思いました。本当にありがとうございます。

- 19 3点, 質問です
 - ①1日目の、井上先生の第4回のスライド7の、「鳥取大学のスライド 整え上手のコツ1 ~ 5 」はどこかで見られますか?
 - ②2 日目の,第 6 回,スライド 5 で,中田先生が 3 宇野行動をタイプ分けで,ADHD やASD を例に挙げてお話しされていたのですが,聞き逃しました。もし可能であれば,教えてください。
 - ③同じく、2日目の、第6回、スライド7で、注目を外すことで、一時的に激しくなる場合があるとのことでしたが、それへの望ましい対応はありますか?中田先生は、ほかの場面で?話をよく聞いてあげることとおっしゃっていたようにも思いますが、これも聞き逃しました。もし可能であれば、教えてください。
- 20 大変勉強になりました。ありがとうございました。
- 21 1 グループで出た質問です。ファシがうまくなくグループで扱いきれずすみませんでした。 可能な範囲でご回答や情報をシェアいただけたら大変ありがたいです。
 - ①保護者に変容が見られない際にファシが焦ったり不安になったりすることがある→対応 の工夫,心構えなどがあれば知りたい。
 - ②障害の有無にかかわらず、広く浸透するとよい内容だと思う。今後のプログラムの展開など進められていることがあれば知りたい。(子育て支援文脈や保育園幼稚園等での展開があるかどうかというお話の主旨かと思いました。)
 - ③子どもの強みを、プログラムを実施する中で扱っていくことができるか、できる場合はどのようにできるか。
 - ④教員向けにも同じようなプログラムがあるとよいと思うが、そういった情報はあるか。

井上先生・中田先生に FB をいただけるグループの中で演習を体験でき、またたくさんの SV の先生方のお考えや実践をお伺いでき、得ることがとても多かったです。オンラインでもとてもスムーズに受講できたことも、先生方のご尽力のおかげかと思います。本当にありがとうございました。

- 22 一昨年,日本ペアレント・トレーニング研究会のことを知り,入会したいと思っていましたが,紹介がないと入会できないようでしたので申し込みをしていませんでした。しかし,今回の研修に参加して入会が可能なのであれば申し込みをさせていただきたいと思いました。入会申し込みは難しいでしょうか。
- 23 | 質疑応答の時間をもう少し多く設けて頂きたかったです。
- 24 | 今後、ペアトレを行えるように頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。
- 25 PT 研究会には入っておいた方がいいのでしょうか,可能なら入会希望します(近隣に関係者はいません)
- 26 同じグループ内の受講者の方々が上手すぎて焦ってしまった部分はあったのですが、実践あるのみで、実行していきたいと思います。その際に疑問や不安等が出てくると思うのでその後のフォローアップの案内を楽しみに待っています。井上先生をはじめ多くの信頼出来る SV の先生がいらっしゃりとても有意義な貴重な 2 日間でした。ありがとうございま

した。

- 27 お忙しい中、このような形で研修を開催していただき、本当にありがたく思っております。 グループワークや丁寧な質疑応答を考えると、今回の人数が限界とは思いますが、もう少 し多くの方が参加できると助かるなと思います。いくつか質問を失礼します。
 - ・ABC 分析は、保護者に取り組んでもらうには難しい内容と感じていますが、実施にあたり工夫できる点などがあれば教えてください。特に、実施している感触としては「きっかけ」の記入が難しいように思います。時間帯や場所、本人のコンディション等と、直前の刺激、結果との対比などを思いつくままに記入するよう説明していますが、厳密には全てきっかけにまとめるべき項目ではないと思いますし、どこまで記入を求めるのか、整理するのか迷います。
 - ・「待ってからほめる」について、保護者に取り組む行動を選んでもらう場合、自己刺激や 自傷他害など、注目しないことが有効ではない、または危険が生じる行動を選んでしまう のではないかと心配であまり取り組めていません。何かアドバイスがあればお聞きしたい です。
 - ・「3つの行動に分ける」についてです。時間の制約があるためセッションの中で許しがたい行動について扱えないため、ペアプロの良い行動、努力している行動、困っている行動 の3つに分けるワークを取り入れようと考えていますが、それは問題ないでしょうか?
 - ・個別的な質問なので不適切かもしれませんが、確認する場がないので聞かせてください。 私は、2泊3日の宿泊形式で PT を実施しており、ホームワークを踏まえた上でセッションを進行することができていません(事前事後のホームワークはあり、1 か月後のフォローアップは実施しております)。このような特殊な形で実施しても良いものでしょうか?
- 28 とても貴重な研修に参加させていただきありがとうございました。
- 29 今回のマニュアルが完成したら、ぜひ実施してみたいです。どのような形で手にいれられるか決まりましたら教えていただければと思います。今回のような、オンラインでワークが体験できる研修を、引き続き実施いただけると、地域で実施できる人をふやしていく大変有効な機会となり、とてもありがたいです。今回、私の地域では、4つの機関から6名の人が申し込みにのぞみ、2名が参加できました。伝達はしていきますが、今回のような機会が定期的に行われることを望んでいます。

3-5 まとめ

研修は、主に PT 実施におけるグループファシリテーションの手続きやスキルについてオンラインという形態で重点的に学ぶ内容であった。参加者はペアトレ実施経験者と未経験者とが約半数程度であり、心理専門職の参加が半数以上であった。支援経験年数も6年以上と、中堅職員の参加が半数以上であった。これらのことも影響し、全ての研修内容の理解度や今後の実施に関する効力感について良好な結果となり、オンライン実施による本研修内容は、今後参加者が自機関で実施する際に有用である可能性が示唆された。また、SV が参加していることでの参加者の安心感や取り組みやすさが表れており、各グループに SV が入ることで、研修内容の理解や RP への取り組みについて、より自信を持てたと考えられる。しかし、実際に参加者が実施することで本養成研修が本当に有用であったか、今後のモニタリングでの確認が必要となるであろう。

本研修で扱ったプログラムの内容のうち、『親子タイム』については、講義の中でどのようなものかを簡単に説明したのみであったため、理解や実施については参加者の不安がやや窺えたが、その他ファシリテーターの RP を行った内容については、今後の実施に関する参加者自身の評価が高かった。いずれかの内容において今後自身が進行できるかどうか問う項目で「あまりそう思わない」と回答した参加者は、主に PT 実施経験のない参加者であったことから、実施経験のない者へは研修後の継続的なサポートが必要と考えられた。また、自機関で実施する際の SV の必要性についても多くの参加者のニーズが見受けられ、自由記述でも質問内容や難しいと感じられる点につい多数の意見が寄せられていることや、本研修内容で詳細に扱えていない内容についても質問が記載されているため、実施経験の有無に関わらず、今後のサポート体制については検討をする必要があると考える。

4. ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修における SV へのアンケート調査 調査結果報告

4-1 目的

本調査は、本事業で作成した基本プラットフォームのマニュアルに基づいて実施した、ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修会の内容が、グループにつくスーパーバイザー(以下, SV)からみても参加者にとってわかりやすかったか検討することを目的とした。

4-2 対象

日本ペアレント・トレーニング研究会が 2 日間に渡り開催した「ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修会」(以下,養成研修会)に参加した SV8 名とした。SV は本事業の委員及び PT 実施関係者であった。

4-3 方法・期間

グーグルフォームを用いて実施した。項目は本事業の委員で作成した。SV の基本情報 (表 1), アンケート調査項目 (表 2,表 3) は、養成研修会の内容に沿い、参加者の理解度「~について理解できたと思う」と、自身が実施できそうかという効力感「~できると思う」について尋ねた。それぞれ「そう思わない」「あまりそう思わない」「そう思う」「とてもそう思う」の 4 択とした。マニュアルの内容に関する意見については自由記述とした。なお、SV の役割としては、参加者がRP をする際や振り返りのファシリテート及びグループ内での質疑への応答であった。

実施日は養成研修の開催日である 2021 年 2 月 21 日と 2021 年 2 月 23 日とした。

表 1 SV の基本情報項目

項目	項目詳細		
PT 実施経験年数	1~3年未満,3年~5年未満,5年以上		
	10年以上		
実施している主なプログラム	精研式、奈良式、肥前方式、鳥取大式、基本プラットフ		
の種類	ォーム,その他		

表2 SV1 日目アンケート項目

- 1 基本プラットフォームの内容は受講者にわかりやすかった
- 2 グループワークのコツの内容は受講者にわかりやすかった
- 3 ファシリテーターの専門性の内容は受講者にわかりやすかった
- 4 第1回の講義マニュアルは受講者にわかりやすかった
- 5 自己紹介のワークは受講者にわかりやすかった
- 6 受講者は自己紹介のワーク内容を理解して取り組めていた
- 7 良いところ探しのワークは受講者にわかりやすかった
- 8 受講者は良いところ探しのワーク内容を理解して取り組めていた
- 9 第1回の内容についてお気づきの点があれば教えてください(自由記述)
- 10 第2回の講義マニュアルは受講者にわかりやすかった
- 11 「子どもの行動観察と3つのタイプ分け」の説明は受講者にわかりやすかった
- 12 ほめようシートのホームワーク報告の演習は受講者にわかりやすかった
- 13 受講者はほめようシートの演習を理解して取り組めていた
- 14 ほめるロールプレイの演習は受講者にわかりやすかった
- 15 受講者はロールプレイの内容を理解して取り組めていた
- 16 第2回の内容についてお気づきの点があれば教えてください(自由記述)
- 17 第3回の講義マニュアルは受講者にわかりやすかった
- 18 『子どもの行動のしくみ』は受講者にわかりやすかった
- 19 第3回の内容についてお気づきの点があれば教えてください(自由記述)
- 20 第4回の講義マニュアルは受講者にわかりやすかった
- 21 整え上手のワークは受講者にわかりやすかった
- 22 受講者は整え上手のワークを理解して取り組めていた
- 23 第4回の内容についてお気づきの点があれば教えてください(自由記述)

表3 SV2 日目アンケート項目

- 1 第5回の講義マニュアルは受講者にわかりやすかった
- 2 CCQ のロールプレイは受講者にわかりやすかった
- 3 受講者は CCQ のロールプレイを理解して取り組めていた
- 4 第5回の内容についてお気づきの点があれば教えてください(自由記述)
- 5 第6回の講義マニュアルは受講者にわかりやすかった
- 6 待ってからほめるロールプレイ説明は受講者にわかりやすかった
- 7 受講者は待ってからほめるロールプレイを理解して取り組めていた
- 8 第6回の内容についてお気づきの点があれば教えてください(自由記述) 〈SV について〉
- 9 本研修での SV としての役割を務められたと思う
- 10 今後も基本プラットフォームにおけるスタッフ養成研修の SV を担当できると思う
- 11 その他、マニュアル及び研修内容についてご意見ご感想があれば教えてください (自由記述)

4-4 結果

4-4-1 回収率及び有効回答率

養成研修 1 日目の SV は 8 名, アンケート回収率は 100%(8 名), 有効回答率も同様であった。 養成研修 2 日目の SV は 7 名, アンケート回収率は 86% (6 名), 有効回答率も同様であった。

4-4-2 SV の基本情報

この度参加した SV は、全員 PT 実施経験年数は 10 年以上であった(表 4)。これまで SV が 実施経験のある PT プログラムは、基本プラットフォーム経験者は 3 名 (23%) であった (表5)。

表 4 PT 実施経験年数

		N	%
1~3 年未満		0	0
3年~5年未満		0	0
5年以上		0	0
10 年以上		8	100
無回答		0	0
	合計	8	100

表 5 実施している主なプログラムの種類(複数選択可)

	N	%
精研式	3	23
奈良式	2	15
肥前方式	2	15
鳥取大式	2	15
基本プラットフォーム	3	23
その他	1	8
合計	13	100

その他:基本的には、鳥取大方式・肥前方式をベースに、基本プラットフォーム、精研・奈良式の内容 も盛り込み、参加者によって、ストレスマネジメントなども入れたオリジナル

4-4-3 参加者の理解度や取り組みの様子について

1日目と2日目のアンケート結果を表6に示した。自由記述については表7~表12に示した。 SV からみた『自己紹介』の内容と『子どもの行動のしくみ』の説明は、参加者にとって「あまりそう思わない」が1名(13%)と2名(25%)みられたが、その他の内容については、無回答を除くと「とてもそう思う」もしくは「そう思う」の回答となっていた。『良いところ探し』は演習の説明内容は、参加者へのわかりやすさが「とてもそう思う」が3名(%)だったが、『良いところ探し』 RP への参加者の取り組み具合については全員が「とてもそう思う」と答えていた。

表 6 研修内容の参加者の理解度と取り組み度について

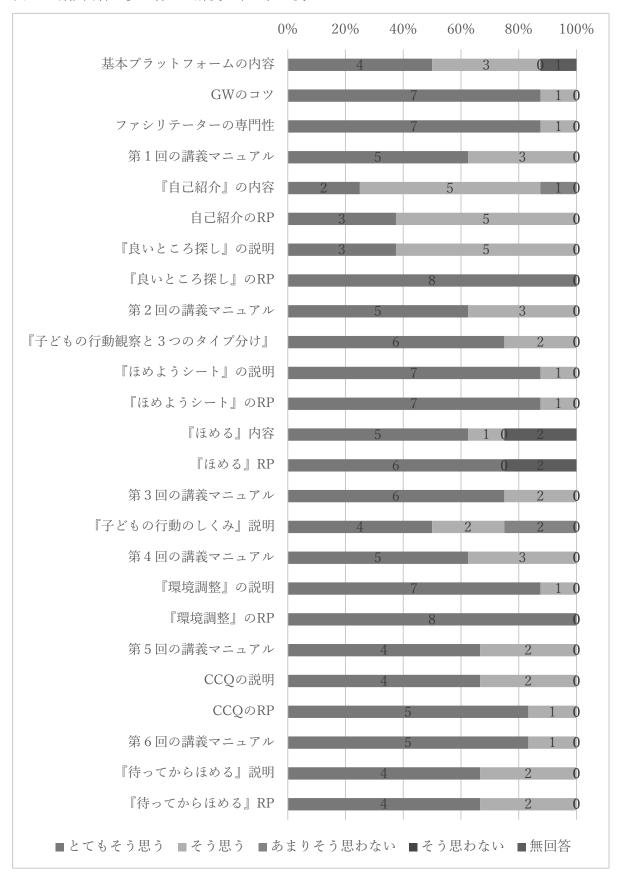


表 7 第 1 回の内容について

- 1 アンケート調査で事前事後を同じ状況 (リアルタイムか、持ち帰りか) でとるほうがいいということを説明していただけてよかったです。自分自身はそうしていますが、他の方にお伝えするときに抜けていました。
- 2 先ほどアフターセッションでお伝えしましたが、自己紹介のワークで、専門家として自身の 紹介を全員終えたあと、ファシリテーター中心に親役との自己紹介ワークに入れるような形 のほうがやりやすいと思いました。区切りがなかったので、ファシリテーターが親役へのコ メントをする機会を逸してしまっていました。
- 3 グループワークのコツのワードファイルと、実際にスライドで示していた説明に、違いがある部分が一部ありました。内容は全く問題ないのですが、初学者の方の中には、そのような細かい文言等を気にされて、どっちがあっているのだろう(例えば、用語の使い方なども)と混乱される方もいると思いました。今後、全体を通して、スライドの微修正をされていくと思いますので、細かいところで申し訳ありません。
- 4 養成研修における自己紹介は、参加者同士がまず自己紹介をしてからワークに入って、仮想の保護者としての紹介と子どもの紹介ができればよいのではないかと思いました。ただ、特に今回の手続きで当グループでは混乱はなかったです。

スライド 15 は、好みかもしれませんが、子供のことを理解する上で、体や手指の項目は後にし、理解面や感情表出から説明した方がピンときやすいかなと思いました。

良いところ探しは、日常生活の中でできていることでよいというような、少しペアプロの内容のような説明もあると、ファシリテーターも提案しやすいかと思いました。

表8 第2回の内容について

- 1 前回の復習をする時間はとても重要と思っていたので、「おさらいから」と井上先生に言っていただけてホッとしました。スライド2の説明文がわかりやすく、とてもいいと思いました。
- 2 タイトルが「行動観察と3つのタイプ分け」なのに、セッションの中で3つに分けないのは変な感じです。
- 3 スライド 13 のタイトルに「環境調整」が入っていますが、これは他の回かと。第 2 回で軽く ABC にも触れていますが、ここではもっと行動を具体的に表現する練習や、褒めるポイントをみつけるコツのお話があった方が、行動の 3 タイプ分けの記入もしやすいのではないかと考えました。

表9 第3回の内容について

- 1 スライド 8, 9, 10, 11, 12 は特にわかりやすいと思いました。受講者とこのスライドについて話し合えてはいないのですが、みなさんがどう思われたか聞きたいと思いました。
- 2 ホームワークの報告では、分類はともかく「行動」を具体的に記述することの確認が大切だと思うのですが、演習にあるほうがよいのではないでしょうか。
- 3 行動の3つのタイプ分けに、2種類ずつ用語があり、増やしたい、好ましい、などその表記の統一や、その2種類の説明があった方がよいかもしれません。気になる人がいると思います。
- 4 ABC は、いつも実施者が説明が難しいときくことなので、参加者にワークをしてもらって みる演習も今後の養成研修ではあってもよいかと思いました。

表 10 第4回の内容について

- 1 実際のペアトレで、親子タイムの具体例についての質問にかなり時間を取られることが多いです。セッションが終わってから保護者が残って質問攻めに会うこともよくあります。子どもとの遊び方がわからないという保護者さんが多くなっているように思うので、そのあたりを受講者さんにお伝えできたらいいのかもしれないと思いました。
- 2 環境調整と親子タイムなのか、親子タイムと環境調整なのか、スライド順(環境調整→親子タイム)と説明(スライド7の説明には前半親子タイム、後半環境調整のことになっています)、タイトルの不一致(スライド表紙と、資料のヘッダー部分)があります。
- 3 テキストにはなかったですが、写真入りのスライドがあるのは良かったです。あのスライドを参加者がどのように用意できるかなと思いました。オンラインでは難しいかもしれませんが、親子タイムは、折り紙のワークのようにファシリ役の方がロールプレイなど体験できると、イメージもでき説明しやすいかと思いました。オンラインの場合は、ビデオなので見せられるとよいでしょうか。

表11第5回の内容について

- 1 │ 時間配分が難しかったですが、RP 体験がかなり満足感が高いようです。
- 2 CCQ の台本(パワーポイントの)が、受講者から「ブロークンレコードのようですが」と言われました。CCQ で繰り返すのは2~3回くらいで、よいかと思うので、演習のときにちょっと混乱しました。
- 3 このセッションは私が不慣れなこともあり、グループでの話し合いの時にブロークンレコードの話題もしてしまいました。また、RPでは、子役の方が、予告の段階で子どもが同意を示さない態度のまま約束の時間になった際の指示に入ったのですが、子どもと終了の同意を得られていた方がよいのか、得られていなくても最終的な指示に応じられればそれで OK なのかで私が悩んでしまったところがありました。RPとしては、CCQを守って指示を 2、3度だせたら OK ではないかと理解しましたが良かったでしょうか。○時になったら終わり、は、ゲームの前から同意を得てから開始、のような環境調整の部分の説明もグループワークではさせていただきました。

表12 第6回の内容について

1	アドリブでやってもらいましたが、Zoom でも十分臨場感がありました。
2	演習シートをとばして、パワーポイントのアイス買って!でロールプレイをしてしましま
	した。また、録画を忘れてしまいました。
	待ってほめる→何(行動)を無視して,何(25%の)を待つのか,意識するのが大切だと感
	じました。
3	アドリブでする RP は子役の方が, どのように演じればよいかイメージがつきにくく, 1回
	の指示で聞き分けよく応じてしまい,無視の練習になりにくいということがありました。
	子役に求められることの説明がもう少しあってもよかったかと思いました。
	CCQ もそうですが,本日参加者に配布されたような RP の手順スライドは講義の中にもあ
	るとよいなと参加者の方々と話をしました。
	本日 2 つの内容は,児の特性によっては気を付けた方がよい内容であるため,実施者側が
	ASD や ADHD の知識と支援経験が豊富であることが求められるように思いました。児発
	職員が実施する場合は、丁寧な説明が必要かと思いました。

4-4-4 SV としての感想について

2日目に実施したアンケートのうち、本研修に SV として参加したことについて尋ねた項目の結果を表 13 と表 14 に示した。SV としての役割を務められたと思った SV は、「そう思う」 4名 (67%)、「あまりそう思わない」 2名であった。今後も基本プラットフォームに基づく PT スタッフ養成研修の SV 担当ができるかどうか問う項目では、「そう思う」と 4名 (67%) が答えていた。養成研修参加スタッフが基本プラットフォームを実施できると思うかどうかについては、「そう思う」が 3名 (50%) であったが、「あまりそう思わない」という回答も 1名 (17%) 見られた。

表 13 本研修での SV としての役割を務められたと思う

	N	%
とてもそう思う	0	0
そう思う	4	67
あまりそう思わない	2	33
そう思わない	0	0
無回答	0	0
合計	6	100

表 14 今後も基本プラットフォームにおけるスタッフ養成研修の SV を担当できると思う

	N	%
とてもそう思う	1	17
そう思う	4	67
あまりそう思わない	1	17
そう思わない	0	0
無回答	0	0
合計	6	100

表 15 自身が基本プラットフォームのペアトレを実施できると思う

	N	%
とてもそう思う	1	17
そう思う	3	50
あまりそう思わない	1	17
そう思わない	0	0
無回答	1	17
合計	6	100

表 16 その他意見・感想

- 1 9にも記しましたが自分自身が全体の流れがよく分かっておらず、参加者の方に満足していただける SV はできなかったと反省が多いです。今回流れがわかりましたので、10 については「そう思う」とさせていただきました。自信ありませんが。。。
 - 二日間、参加させていただけて、さまざまな SV の先生方のお話も聞けましたし、貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございます。また、参加者の皆さんの対応などからも勉強させていただくことも多くありました。皆さん優秀な方たちばかりでした。
- 2 プログラム全体としては、改めてみて、よい形だと思いましたが、自分は実際に基本プラットフォームのペアトレを経験してみないと、SV は難しいと感じました。
 - 基本プラットフォームの研修でペアトレをやり始めた人が、さらに学べる(今日の話で、機能分析の活かし方はこの先、とありましたが)機会があるとよいと思います。
- 3 1日目の内容は大丈夫だったのですが、2日目については自身が実施経験が少ない内容だったので、SVとしては未熟だったと感じています。CCQは上手な指示の出し方として紹介はしていましたが、RPは本プログラムに含むのではなく、フォローアップやアドバンスとして実施していました。基本プラットフォームの実施経験を重ねる必要を感じました。
 - ファシリテーターに特化した研修内容は、実施に向けては大変有益な機会になったのではないかと思いました。本を見ながら PT を始めた身としては、本研修は実践的な練習ができ開始に向けた心構えになりますし、経験者にとっても他の参加者のファシリを見ることで、さらに学びになると思いました。

4-5 まとめ

本アンケートから、本養成研修内容については SV からみても参加者にとってわかりやすい内容となっており、参加者が講義内容を理解してファシリテートできていたという結果が示唆された。『子どもの行動のしくみ』の説明に関してのみ、あまり参加者が理解できていなかったのではないかといった回答も見られた。これは、参加者のアンケートからも、三項随伴性(ABC 分析)についての理解や説明の難しさについて記載があり、今後の養成研修等では扱う必要があると考えられる。その他、SV からは研修内容及びマニュアルについても気づいた点等意見があがっており、今後のマニュアル作成や改善にこれらの意見を反映させ、ブラッシュアップさせていてくことが大切と考える。

本養成研修に参加した SV は、PT についての専門家及び、実施年数が 1 0 年以上のベテランばかりであった。しかし、SV 8 名のうち基本プラットフォーム実施経験者は 3 名であり、SV によっては精通していない内容も基本プラットフォームにあったことから、結果からは SV の戸惑いも多少見受けられた。参加者に実施したアンケート結果では、SV が参加していることでの安心感や取り組みやすさが示唆されており、参加者の理解等には影響はなかったと考える。SV もより自信を持って基本プラットフォームの SV の役割を担えるようになるには、基本プラットフォームを実際に実施してみる機会を持つことが必要であろう。今後、日本において PT 基本プラットフォームを普及していくためには、スタッフを養成できる支援者を育成していくことも課題である。

委員からのコメント

ペアレント・トレーニングの支援者養成に関する成果と課題 井上雅彦 (鳥取大学医学系研究科 JDDネット理事)

昨年の推進事業ではペアレント・トレーニング(以下 PT)の地域への拡大と定着の条件の一つとして支援者養成に関する課題があげられた。本年度の事業目的は PT の支援者養成に関するマニュアル・テキストブックを開発することであった。支援者養成りためのマニュアルは、昨年度事業である実態調査とガイドブック作成の成果を踏まえ、基本プラットホームにそった内容・分量となるように事業委員で討議を重ね。実際に親御さんに使っていただくテキストと同時開発した。さらに COVID19 の影響があったものの支援者養成マニュアルを実際に使用し、WEB を活用した遠隔方式で実施し、参加者とスーパーバイザーにアンケートを実施した。

昨年同様、事業委員の先生方については、我が国の代表的な研究者や実践者に加わっていただき、PTの支援者養成のあり方についても踏み込んで討議を重ねることができた。今年度は半年間の実施であり、支援者養成講座を企画するための運営マニュアルやスーパーバイザー養成のためのプログラムの開発、そして養成講座修了生たちの実施した PT の成果に対する検証は残念ながら未着手であった。

人が人に行う支援は、マニュアルがあるからといって一様ではない。これがプログラムの効果に対する再現性を高める上でも困難な点でもある。PTに限らず支援者養成には、求められる一定のスキルや知識レベルはあるとしても、支援者としてのゴールというものはなく、日々研鑽を積んでいかなければならない。そういった意味でも養成後のスーパービジョンのシステムは必須であろう。先行地域のセンターがこの役割を果たしつつ後継機関と連携できていくことで新たなネットワーク体制が築かれていくことが理想である。

マニュアルは最低限の内容であり、PTの一定の質を担保するためには必要であるが、実施に当たっては参加者である親にあわせた柔軟性を持つべきである。それぞれの支援者が、だれのための支援であるかを自らに常に問いながら実践し、時には迷い、悩み、親とともに喜びを感じられることを望んでいる。今後のデータの蓄積によってエビデンスのある家族支援プログラムとして PT が確立され、今回の事業成果が活用されることを願っている。

ペアトレのテキストの完成に際して 一これまでの経緯とこれからについて一 中田洋二郎(立正大学心理学部)

ペアレント・トレーニングのプログラムの開発から 20 数年が経ちます。ペアレント・トレーニングのプログラムは、発達障害の種別による対応の違いや保護者支援のあり方など、苦労と工夫を重ねて成長してきました。このテキストにはそこから生まれたエッセンスがちりばめられています。このテキストが完成するまでの経過を余話として紹介しましょう。プログラム開発の発端は 1990 年代後半、厚労省の研究班の ADHD の診断と治療のガイドラインの作成でした。すでに米国では、ADHD の支援方法としてペアレント・トレーニングが有効なことが実証されていました。このテキストは米国で開発された ADHD のペアレント・トレーニングのプログラムを基礎にしています。ADHD のペアレント・トレーニングの特徴は、ADHD のある子どもと親の間に起こりがちな「叱り・叱られる」という関係を修正することです。その特徴は「ほめる」ことを基本とするこのテキストのプログラムにも生き続けています。

また、親の感情コントロールも親子関係を修正するためには大切です。第5回「子どもが達成しやすい指示を出そう」で学ぶCCQは、感情的になりがちな日ごろの指示を変える方法です。CCQは親の感情コントロールのみならず、指示が端的で具体的なことから、ASDの状況認知や意図理解の苦手さを補い、発達障害全般のペアトレの重要な要素として定着しました。

第6回「待ってからほめよう―上手な注目の外し方-」は、ADHDで起こりがちな親の否定的な注目が子どもの望ましくない行動を強めるという悪循環から抜け出す方法です。子どもの行動を無視して子どものより望ましい行動が生じるのを待つという方法は、子どもがある程度の自己主張ができることを前提にしています。自己主張が弱い幼児や他者とのコミュニケーションが少ない ASD の子どもでは、この方法が活躍する場はあまり多くはありません。

それよりも困ることは、ASD のある子どもの場合、親が注目を外しても要求固執がなかなか弱まらないことでした。どうもその背景には、コミュニケーションとしての要求の固執ではなく、要求そのものに固執してしまう ASD 特有のこだわりがあるようです。そこから ASD の特徴に配慮したプログラムの修正の必要性が生まれました。そのことから、第3回「子ども行動のしくみを理解しよう」の行動の機能を分析する方法や、第4回「環境調整とスペシャルタイム」の環境を変えることで子どもの行動の生起と消失をコントロールする方法がプログラムに組み込まれました。

このようにして成長してきたプログラムですが、個体発生は系統発生を繰り返すと言われるように、初めてペアトレを実践される方はここに紹介したことと同じことを経験するかもしれません。しかし、そこから生まれる工夫は新たなものであり、それぞれの支援の立場や環境にあったペアレント・トレーニングがさらに成長していくのだと思います。

地域でのファシリテーター養成に向けて 式部陽子(帝塚山大学 心理学部)

今回の事業では、支援者用マニュアルと親用テキストの作成、ならびにファシリテーター 養成研修の実施と支援者への調査が実施された。新型コロナウイルス感染症の影響により、 養成研修はオンライン開催となったが、全国各地の支援者から応募があり、すぐに定員に達 した。養成研修参加者の中には、所属機関ですぐにでも実施予定があるという方もあった。 研修ニーズの高さを感じるとともに、オンラインでの研修受講後すぐに地域での実践を求 められている支援者の不安やプレッシャーも伝わってきた。

これまでさまざまな地域でのPT運営やスタッフの育成に携わってきて思うことは、地域で実際に一人の支援者がPTの講義ができるようになり、グループワークのファシリテーターができるようになるには、3年が必要、ということである。

石の上にも三年、ではないが、初年度は PT の専門家が講義と全体の進行を担い、地域の心理士などの支援者がグループワークのファシリテーターをしながら、講義のポイントや全体の流れを理解する。2年目に、講義の一部を地域の支援者が行い、グループのファシリテーションの技術を高める。そして3年目に、講義と全体の進行を担当し、グループのファシリテーターは新たなスタッフが担当する。多くの地域ではこのサイクルを続けながら、人事異動で人が替わり組織が替わっても、地域の家族支援のひとつとして PT が根付き、存続している。

今回、支援者用マニュアルと親用テキストを作成するにあたり、これまで出会ったたくさんの地域の支援者や参加者を思い浮かべながら、どのような文言を使えばわかりやすいか、どのような解説があれば初めての人でも実施できるか、委員の先生方と検討を重ねた。

さまざまな地域で、さまざまな対象者に、さまざまな立場の支援者が、このマニュアルをもとに実践するとなれば、完璧な内容のマニュアルは作れない。コアエレメントや基本となる考え方、実践でよく課題となる内容をマニュアルに盛り込み、あとは、地域や参加者のニーズにあわせて微調整をしてもらうことになる。今後、どのような対象者に、どのようなアレンジをして、どのような成果が得られたのかといったデータを収集していくことが課題となる。

親用テキストも、これが完成品、というものではなく、これまでの実践をベースに作成された、たたき台であると思っている。これを実際に地域で使ってもらい、どのようなところが説明しづらかったのか、対象者にあわせてどこを削りどこを追加したのかなど、これからたくさんの支援者の方々に様々な角度からテキストを検証してもらい、より使いやすいテキストが作っていけるとしたら、大変嬉しいことである。

理論や技術の基本を大切に、地域の資源を活かし、親子のニーズに寄り添いながら、さまざまな地域の支援者とともに、ここからまた新たな一歩が踏み出せることを願っている。

事業に関するコメント 石井礼花 東京大学大学院医学系研究科

実施者用のマニュアル

1-1、1-2では、セッション全体の時間はあったのですが、宿題で何分ぐらい、今回のテーマーに何分ぐらい等、それぞれのパートにどのくらいかけるか時間配分が入っているとよりわかりやすいのではないかと思いました。また、サブの動きについて、どの部分をホワイトボードに書くかや書くときのポイント等も、初めてペアトレをされる方はお知りになりたいのではと思いました。

- ・1-4プログラムの運営について、とても参考になりました。医療で行う場合は、医療の枠組みのものを提示しないといけないなあと思いました。
- ・第3回の資料ではスライドの横にファシリテーターの台詞が記されていて、とてもわかりやすいと感じました。

参加者テキスト

- ・パワーポイントで、右にノートが入っているので、何をどのタイミングで説明すれば良いかが分かりやすかったです。それぞれの部分のポイントについても、理解しやすいと感じました。
- ・「注目を取り去る」の内容が「待ってからほめる」となって、最後に入っているのが 興味深いと思いました。親御さんの中には、注目を取り去るに手応えを感じにくい方 や、早い段階でこれに取り組むことに抵抗を示される方もいらっしゃると感じていた ので、指示の内容も伝えた上で、最後の方でこちらを伝えることや、「待ってからほめ る」とほめるに結び付いていることを意識する言い方にされているところ等、考え抜 かれていらっしゃると感じました。
- ・また、環境が整理されればやり易くなる方も多いと思うので、指示の内容の前に環境調整について詳しく説明されているところが良いと思いました。一方で、特に1回目の説明で、字が多く、理論的な内容が多いため、文書を読むことに慣れている方には馴染みやすいかもしれませんが、そうでない方には特にオンラインだと、少し入り込みにくく、途中で上の空になったりしてしれないと感じました。対話として、参加者の方の日常場面と結びつけて説明が進行すると入り込みやすいと感じました。

前後での評価尺度

今、私が研究で使用しているもので、無料で使えるかもしれないものですが、まだ検討と準備が必要です。Parental perception index 養育行動の尺度を日本語にしたものがあるので、無料なので、そちらを原著者に許可を取って、公開しても良いかもしれません(日本語の標準化はしていない)。Kindl であれば、子供の QOL も無料で測定可能かもしれませんし、家族関係の質問もあります。https://www.kindl.org/english/languageversions/japanese/・ADHD 症状 SNAP(日本語の標準化はしていない)

PT テキスト、養成研修についてのコメント 井澗知美 大正大学 心理社会学部

まずは、具体的なテキストの作成、養成研修の実施に直接携わった先生方、たいへんな時間と労力であったと思います。ほんとうにご苦労様でした。研修に参加された先生方からもわかりやすいと好評であったことが感想の欄からわかりました。

しかし、一方で、これは PT に限らないことですが、マニュアルの整備とプログラムの自由度はどうなのだろうという疑問が残りました。「ペアレントトレーニング」としての質を担保するという点では、マニュアルはとても役立つものと思います。しかし、マニュアルだけあればよいのではなく、養成研修でのディスカッションを通して、プログラムの意図や理解を深めていくことが大事なのだろうと思います。よいマニュアルがあることで、思考停止してしまうことのないようにと思います。

ペアレントトレーニングのプログラムの要素を知り、それがどのように親子に有効に働くのかを意識して実践することや、効果があるのだとするとなぜそのような効果があらわれたのかを意識することで、プログラムは参加した保護者にとって自分のものとして活用できるものに変化していくのではないかと思います。

最後に、プラットフォームはこれでよいのだと思いますが、個人的にはペアレントトレーニングはサポートグループではなく、スキル獲得のプログラムと思っています。スキル獲得に共に取り組む中で、相互扶助的な動きがうまれ、結果サポートしあえるというのはあると思いますが。実践者(支援者)の意識をどこにもっていくかはじつはポイントだと思っています。それにより「宿題のふりかえり」の扱い方も変わるのではないかと思うからです。今回のマニュアルを読むと、サポートグループのニュアンスが強いのか?と思うのですがどうでしょうか。宿題のふりかえりは前回学んだスキルをうまく使えたかどうかに焦点をあてるのがよいのではないか、と思います。

「基本プラットフォームに基づくペアレントトレーニング」プログラムへのコメント 庄司 敦子 まめの木クリニック

「基本プラットフォームに基づくペアレントトレーニング (PT)」は、対象となる子どもの診断や状態を限定せず、幅広く「発達が気になる子ども」をもつ親に実施するために開発されました。子どもの支援にあたる専門家で、「PT を受けたいという親のニーズに応えたいけれど、どのようなプログラムを提供すればよいのかわからない」と悩んでこられた方には、待ち望まれたプログラムであると思われます。

本プログラムでは「ほめる」ことを一貫して大切にしながら、行動には仕組み(随伴性)」があることを知り、問題を予防し子どもが適切な行動をしやすくするよう、環境調整を図ることにも取り組むことになっています。子どもの行動を ABC の流れで捉え、B (行動) を変容させるには、A (状況) や C (結果) を変えるという知識とともに、ほめ方、指示のコツをなど、盛りだくさんの内容を少ないセッション数で扱います。個人的には、一つ一つ丁寧に解説が必要だと感じる内容ですが、マニュアルが整備されたことで、実施しやすい形になりました。実施しやすさと、ばらつきが生じにくいことは、実施する側と受講する側、双方にとってメリットであると思います。

しかしながら、実際に受講した親が「ほめる」、「指示」、「無視」等のスキルをどの程度身につけ、維持していくことができるのか、あるいは本プログラムの真の効果は何であるかということについて評価・検討するには、今後の実施者からのフィードバックを待たなければなりません。対象者の幅が広いことから、個別性への対応の難しさも今後の課題として挙げられてくると予想されます。もちろんすべてをPTのなかで解決する必要はなく、他の支援につなげていくことが重要であるとはしていますが、ある親(子)にとってPTの標的が何であるのか見極め、できるだけ手助けしたいと考えるファシリテーターはきっと大勢現れてくることでしょう。その際は、本プログラムのトピックスを一つ一つを深める学び(既存のプログラムを学ぶことも含む)が役に立つのではないかと思われます。

ところで、研修ということに関して言えば、今回初めての本プログラムのファシリテーター養成研修(オンライン)にスーパーバイズ(グループ)の役割で参加させてもらいましたが、良かった点は、表情や話し方を確かめながら一人ひとりとやり取りができたことでした。他者を尊重し、安心感を与えられる(ように振る舞える)ファシリテーターを養成することは重要で、ロールプレイや顔を見てコミュニケーションすることは不可欠であると再確認した次第です。ファシリテーターの養成研修は質と規模について、さらに検討が必要だと感じられました。

ペアレント・トレーニング (PT) テキスト作成、養成研修に対するコメント 高柳伸哉 愛知東邦大学人間健康学部

私はペアレント・プログラムの実施や普及に携わっているものの、ペアレント・トレーニング(以下、PT 支援者)を実施する支援者や専門家ではありません。そのため PT テキストの内容や養成研修へのコメントはできませんが、PT という支援技法を地域に広げるためのツールとしてのコメントに特化して以下に挙げてまいります。

・PT 支援者マニュアル 0316 について

全体の流れや構成、また実際にプログラムの実施で使用できる講義スライドやホーム ワークシート、講師用のマニュアルなど、実施する側をサポートする資料が豊富に用意 されている。プログラムの基本的な内容や、進行に関する必要な部分が用意されており、 さらに地域・実施時期ごとに変更・追加できるようにパワーポイントファイルで作成さ れているため、応用も容易であろう。例えばペアレント・プログラムにおいては、研修 を実施する地域・支援者が活用可能なマニュアルやホワイトボード等に貼付け可能な資 料は発行・販売されているものの、あくまで紙媒体であるため、各地域・支援者がアレ ンジを施すことは難しい。しかしパワーポイントファイルや Word ファイルの配布であ れば、PC とプロジェクター (モニター) は必要となるが、資料の骨格は残しながら必要 な部分を改変するだけで、各地域での実施実態や支援者らの特色が反映された資料へと 作り変えることが可能になる。これらの資料を一から作り上げるのは、本務に追われる 現場の、また PC スキルに自信のない支援者にとっては非常に大変な負担であるため、 本事業のスライド資料等は大きな助けとなると思われる。また、支援者の知識や技量が 必要となるロールプレイについても、絵コンテ入りのシナリオが用意されており、今後 動画化されて各地の支援者らが閲覧できるようにしていくなど、PT 実施のハードルを 下げるとともに、支援者らが事前研修を行うにあたっても活用できる素材が作成されて

これらの資料により、PTを実施するにあたっての事前準備等の負担軽減につながり、各地域でのより一層の普及を促進しうることが期待される。一方、こうした研修を実施する中で「参加者から挙げられた質問への対応」はよく挙げられる課題となっている。そのため、PT 実施時で各地域の支援者が返答できない質問を受けた際の問い合わせ先などを作り、委員会等で集約・共有できると、支援者らのサポートとともに PT 実施や普及に関する実態の理解にもつながるのではないかと思われる。

事業へのコメント 立花良之 国立成育医療研究センター

PT テキスト、養成研修の素晴らしいテキストを拝読させていただき、大変感銘を受けました。プログラムの立ち上げから、当日の運営の仕方、きわめて充実したキストの内容、評価の仕方まで本当に精緻にプログラムを作り込まれていらっしゃり、井上先生を始め、JDD ネットの先生方のご尽力の結晶だと思いました。

2点、気づいたところを挙げさせていただきます。この研修システムの仕組みをよく 知らないため的外れかもしれませんが、この素晴らしいプログラムの知財を守るために、 指導者養成研修に参加された先生方にいろいろな資材をお渡しになる際に、「資料につ いて、無断の複写、転用、資料か、配布はなさらないでください」と断り書きを入れら れるのも良いかと思いました。医療機関でこのプログラムを実施される際に、診療報酬 が取れるのではと思います。たとえば、親御さんのカルテを作ってもらって、「通院集 団精神療法」を算定することも可能かと思います。それについても、運営マニュアルに 書かれてもよいかと思いました。

ペアレント・トレーニングの普及と支援者育成に向けて 原口英之 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所

発達障害のある子どもの支援において、その家族に対する支援を含めることは必要不可欠である。特に親に対する支援の重要性は今日では国際的なコンセンサスとなっており、その支援方法の一形態であるペアレント・トレーニング(parent training: PT)は、世界保健機関のメンタルヘルス・ギャップ・アクションプログラム(mhGAP)介入ガイドで推奨されている¹⁾。わが国においては、PT は発達障害者支援施策に位置づけられており、現在、全国的な普及が目指されている。

PT のプログラムにはさまざまな種類が存在するが、親が子どもに対するよりよい関わり方を身につけ、その関わり方によって子どもの発達を促進したり行動上の問題を改善したりすることを目指す、という点で共通している。しかしながら、さまざまな種類のプログラムが存在することにより、臨床現場では、誰が、どのようなプログラムを、どのように実施したらよいか、を明確な根拠をもって実施することが困難な状況にある。それらの課題を解決するために、国内のPTの有識者のコンセンサスを経て、PTプログラムの基本プラットホームが作成された²⁾。

本マニュアルは、基本プラットホームに基づく PT を実施するためのものである。本マニュアルには、PT の各回で使用する講義資料 (説明のポイントを含む)、演習シート、ホームワークシートはもちろん、PT の実施者に求められる知識や技能、PT の準備等の運営面のポイントに関する詳細な資料も含まれている。基本プラットホームに基づく PT については、本マニュアルに準拠して実施することが推奨される。実際の臨床現場では、支援を必要としている家族のニーズに応じてカスタマイズすることが必要な場合も少なくないが、PT の質を担保する上では原則本マニュアルに沿った実施が重要となる。その上で、実施者には、PT の実践と研修を積み重ね、カスタマイズをしていく技能を高めていくことも求められる。

残念ながら現時点では、PT は発達障害のある子どもの家族が全国どこででも受けられるまでには普及していない。このギャップを解消するためには、PT を実施できる支援者の育成と、PT のプログラムの普及が不可欠である。本マニュアルが PT の普及に寄与することを期待する。

- 1) World Health Organization. (2016). mhGAP Intervention Guide Mental Health Gap Action Programme Version 2.0. https://www.who.int/publications/i/item/mhgap-intervention-guide---version-2.0
- 2) 一般社団法人日本発達障害ネットワーク JDDnet 事業委員会. (2020). ペアレント・トレーニング実践ガイドブック. https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000653549.pdf

ペアトレ事業の進め方についてのお願い 日詰正文 国立のぞみの園

○スコープとシークエンスについて

スコープは学ぶべき内容の範囲のことで、ペアトレに関する基礎的な学ぶべきスコープは、昨年度の推進事業でコア・エレメントとして整理されました。今年度は学ぶ内容の順番、すなわちシークエンスに焦点を当ててテキスト作成が行われました。 シークエンスは、DNAの配列、ヨガのポーズの順番、映画のシーンの展開、移動と共に変化する周囲の景色などを表現する場合に使われていて、どれも無理のないやり方にするために重要な要素となっています。掃除や料理の順番でイメージしても良いかもしれません。良い悪いではなく、ちょっとした変更でずいぶん異なるものになることが感じられると思います。もしかすると、参加者の中には、みなさんがされるペアトレの順番(シークエンス)ではしっくりいかなくて、別の順番の方がしっくりくる方もいるかもしれません。そういうときには、ペアトレの支援者は、個別に時間を取ったり、集合場所から離れてフォローしたりする方が良いこともあるでしょう。しっくりくる順番は、それぐらい重要です。

○子どもと家族が育つ地域の種まき

今回の調査事業では、ペアトレ本体の進め方だけで無く、ペアトレに参加する前の準備や修了した後のフォローアップについても話し合うことがありました。ペアトレに関わるスタッフの職場での理解が無ければ、そもそもペアトレに関わることもできませんし、ペアトレに参加したら参加者は、支援のニーズに気づいてさらに繋がりを深めたいと思うかもしれません。たった数回のペアトレですが、その種まきから実りまではその何倍もの時間が必要になることを想定してから開始することが必要です。トレーニングだけ張り切って、その後は考えていない、引き継ぐことなしに参加者を途中で放り出す・・ということがないようにしてほしいということも、今回の調査に携わった多くの委員の想いです。

○ペアレント・メンター

ペアトレは、参加者自身が自分のくせに気づき、つきあい方をスタッフ相談するきっかけになります。相談されたスタッフは、職種によっても違うのだろうと思いますが、時として指導者になったり、大人の仲間としての水平の(上下関係の無い)つきあいになったりと、場面によって変化するのではないかと思います。同じような関係が、親同士の中にも生まれてきます。

相談を受けても背負いすぎない、自分の意見を押しつけない、そういった知識や技術を身につけたペアレント・メンターの活動が進んでいる地域があります。スタッフとは異なる角度から、とても家族の支えになる存在です。みなさんの地域でペアレント・メンターの活動を実施されているようであれば、ぜひ繋がりをもっておかれると良いと思います。

厚労推進事業委員会、全体を通しての感想や印象 免田 賢 佛教大学 教育学部

今回、井上先生、岩坂先生、中田先生はじめ、若手の諸先生方のご尽力により、この 事業での活動や相互の交流が日本のペアレントトレーニングの発展について大きな第 一歩になったと感じます。また、実際に参加者の方の貴重なお声を聞けたことはとても よかったと感じております。自分は、肥前式で主に実施していた経緯もあり、他方式を 十分理解できていると言いがたい点がありました。しかし、今回の共通プラットフォー ムの錬成と熟知により、さらに有効な臨床技術としうるし、普及と地域浸透への大きな 前進になると確信しています。

さて、今回の資料はおそらくプロトタイプとなるものであり、地域や参加者のニーズ によって柔軟に応用したり、取捨選択の余地を残したものと理解しています。そのため には、確固としたひな形が必要なのでしょう。プログラムについては、セッティングや 募集などの運用面と、プログラムの構造・内容面、そしてファシリテートを含む参加者 への心理的対応など諸側面があります。そのいずれも細やかな配慮が必要だと感じます。 今回、運用面では、第1回ですでにスタッフの自己紹介から始めること、未診断の参加 者がいる場合の配慮、自己紹介の発言順の確認、評価アセスメント後の、心情配慮と気 分転換の試み。そして、グループワーク進行の細やかな心遣いが、スライドに触れられ ています。これは、参加者への心理的対応にも重なるものであり、ペアトレが単なるス キル伝達プログラムに終わらない、集団精神療法の側面があるということを示している と感じます。プログラムの中で決定したことは相互に支え合い、保証し合う、そういっ た意味の心理療法ですね。内容面については、やはり対象者によっては細やかに軽重を かえる必要があると実感しております。第3回でのスライドで行動には4つの機能があ るとしています。回避・逃避、もの・活動の要求、注目要求、自己刺激、であるが、その 後の対応については、注目欲求への対応に限定して講義が進みます。私は、STP に参加 し ADHD がベースにあり、不従順、親子関係障害が二次的に生じている参加者にお目に かかることが多いです。そんな場合でも、基本スキルが獲得できていないためにシェイ ピングが必要だったり、細やかな課題分析が必要なことを痛感しています。また、感覚 過敏の問題を扱う必要性を感じます。ですので、今回のプログラムはあくまでプラット フォームでありますが、1 つの側面のみを扱っているを限定していること、必要に応じ てスキル獲得の側面が必要なことをまず、実施者の方に伝える必要があると思います。 たとえば、スペシャルタイムは、親子関係障害の場合に有効な対応ですね。それを ASD ベースの場合は、オプションにするなどの広がりもあっていいかもしれません。このこ とは検討すればさらによいプログラムへと発展していくと感じております。

いずれにしましても、大変有意義な大きな臨床的貢献につながる機会を今回頂き、深く感謝申し上げます。今後の日本のペアトレのさらなる発展を祈ってやみません。

テキスト作成へのコメント 山口穂菜美 所沢市こども支援センター発達支援エリア

昨年度の自治体、障害児支援事業所および医療機関へのアンケート調査に引き続き、 ペアレント・トレーニングの研修用マニュアルの作成に協力させていただきました。

私が所属する所沢市こども支援センターは2017年に開所し、2018年度からペアレント・トレーニングを開始しました。ペアレント・トレーニングを開始するためには、プログラムを実施する技術だけでなく、事業を運営していくための知識や、周囲の職員の協力が不可欠でした。今回、運営やプログラムの実施の方法が盛り込まれたマニュアルが作成されたことで、これからペアレント・トレーニングを事業として開始していくための一助になるのではないかと思います。周囲の職員の協力を得るためには、まずプログラムはどのようなものなのか、何のために行うのか、などを理解してもらうことが必要ですので、「ペアレント・トレーニング実践ガイドブック」が役に立つと思います。

また、ペアレント・トレーニングを行う上でその効果を評価することは非常に重要であると考えています。昨年度の調査では、ペアレント・トレーニングの効果評価の実施が十分に行われているとは言い難い結果でした。特に子どもの評価を行っていないと答えた機関は多く、子どもの評価の重要性について広く認知されていく必要があると思われます。

自機関でペアレント・トレーニングを行った際、参加された保護者や子どもだけでなく、職員の親支援の知識や技術の向上を感じました。自治体や障害児支援事業所でペアレント・トレーニングが広く行われるようになることで、我が国の発達障害支援における親支援の質が向上することも期待できるのではないかと考えています。